

教育新報

新大教育学部同窓会

第163号

発行人 佐藤重勝

事務局 新潟大学

教育学部内

TEL(025)263-6760

印刷所 (株) 文久堂



九月二十九日 冷たいビールで乾杯しましょう

会長 佐藤 重勝

今年、新潟大学教育学部同窓会は設立六十周年を迎えます。人間であれば還暦です。ご承知のように、還暦とは

甲乙丙などの十干と子丑寅などの十二支の組み合わせが一巡し、起算となった年の干支に戻ることを言います。六十を周期としているのは、十と十二の最小公倍数からきているわけです。

さて、教育学部同窓会の沿革を見ると、人生と同様にさまざまな問題を抱えながら、六十年の道のりを歩んできたことが分かります。

昭和二十六年六月 同窓会設立世話人会の発足(新潟市労働会館)

昭和二十八年三月 三分校修卒生連絡協議会を結成

昭和三十年 三分校修卒生連絡協議会を仮称「教育学部同窓会」とし、仮規約を設ける

昭和三十一年十一月二十五日 新潟

大学教育学部同窓会の発会式を挙行(長岡市公会堂)

(以下省略)

世話人会の発足から同窓会の発会式まで、七年という長い時間を必要としました。同窓会の誕生までに乗り越えなければならぬ問題が、横たわっていたことを物語っています。

ところで、「教育新報」(第百六十号)でも述べたように、現在の同窓会も三つの課題を抱えています。

一つ目は、会員の加入促進と支部組織の充実です。

加入促進については、教職を退いた同窓生、教職以外の職に就く卒業生に対する加入の働き掛けを積極的に行っています。さらに、平成二十二年度入学生を対象に加入を呼び掛け、これまでの三年間で千名を超える学生会員が誕生しています。

しかしながら、支部組織は、県内の市町村を単位とした三十五の支部だけです。これからは、県外の同窓生や現職教員以外の同窓生の受け皿となる支部づくりを行っていく必要があります。そのために、まず、首都圏新潟大学同窓会と連絡を取りながら、この問題に取り組んでいきたいと考えております。

二つ目は、財政基盤の確立です。目的である「会員相互の親睦と資質向上を図り、母校の発展に寄与する」ための事業を行うには、財政的な裏付けが必要です。特に平成十六年、国立大学が国立大学法人になった結果、同窓会は物心両面にわたる支援が期待されるようになりました。

目的を達するための会費の納入も、支部長・学校代表の皆さんのご尽力により、よい状況を示しています。心から感謝を申し上げます。お陰で、昨年度は、オープンキャンパスや卒業祝賀会など、学部への支援ができました。今年度も同様の援助を行う予定です。

また、例年どおり会員相互の親睦を深めるための「同窓生の集い」も開催します。今年は、雲尾周先生に講演をお願いしています。演題は「これから学校と地域社会」です。その後、懇親会があります。大勢の皆さんから参加していただき、三つ目の課題である親睦を深めてもらいたいものです。

花鳥風月

三十六年ぶりに野生で朱鷺のヒナが誕生し、金銀山で世界遺産登録を目指す佐渡への修学旅行引率をしてきた。ろくろで無名異焼の器を作る体験は、緊張の中に集中力と創造力を生かせるとても良い活動であった。

東日本大震災の影響で、会津若松から佐渡へ旅行先変更をした学校が多いと聞く。佐渡出身の小生としては嬉しい限りであるが、会津若松への修学旅行も捨てがたい。

白虎隊・飯盛山もいいが、会津藩校の日新館での体験学習がお勧めである。日新館の心得は今の子どもたちにも是非学んでほしい内容である。(有名な「什の掟」は、日新館に入学する前の子どもたちの心得である。)

会津藩主として特筆すべきは、二代將軍秀忠の四男で三代將軍家光の弟として徳川幕府に忠誠を尽くした「保科正之」である。武断政治から文治政治への転換、善政をしいたとされる四代將軍家綱の治世は、実は正之の采配によるところが極めて大きかったと言われている。

日新館を奨励し、名君であった保科正之が明治以降ほとんど闇に埋もれてしまったのは、明治政府が会津藩を賊徒として討伐することによって成立した政権だったからだという。幕末の松平容保は「会津家訓十五箇条」の遺訓を守り、佐幕派の中心的存在として最後まで薩長軍と戦ったのである。(勇)

評 議 会 (報 告)

六月二日(土)新潟教育会館を会場に、五十嵐教育学部長、顧問の藤井保男様を来賓に迎え、同窓会の評議会が開催されました。

評議会に先立ち、支部長・学科代表者全体会と各部会を開催しました。

評議会では、まず最初に平成二十三年度会務報告・会計決算報告を実施しました。続いて、二十四年度本部役員承認、二十四年度の活動の重点と各専門部の活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認されました。



冒頭、佐藤重勝会長から、顧問の吉澤孝一様、本間英輔様のご逝去の報告がなされ、全員で黙祷をしました。

続いて、来賓をはじめとして各支部長、学科代表者の皆への感謝とともに、本年度、同窓会六十周年に当たるが特

設した行事等は計画していないことなどの説明がありました。



続いて、五十嵐尤二学部長からご祝辞と同窓会の支援に対する感謝の言葉をいただきました。また、情勢報告として、

① 来年の三月に学部長を交代すること

② 教員採用率が五八%を越え、全国平均に近付いたこと

などのお話をしていただきました。最後に、今後ともパートナーとして、学生への支援と援助のお願いがありました。



二十四年度活動の重点

教育学部同窓会のより良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指す。

一 「同窓生の集い」の見直し

- ・ 内容を講演会に変更
- ・ 多くの会員が参加できるように働き掛けを行う。
- ・ 内容によっては、市民の参加の働き掛けを継続する。

二 広報活動の充実

- ・ 会員への情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用を図る。
- ・ より親しまれる「教育新報」を目指すし、内容の一層の充実を図る。

三 組織の充実と強化

- ・ 首都圏同窓会など、県外支部組織の設立を検討する。
- ・ 各部の事業を基に、会員・準会員の帰属意識の向上を図る。

四 大学との連携

- ・ 母校の発展の支援を推進する。
- ・ 学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。

五 全学同窓会との連携

- ・ 全学同窓会交流会への参加を促す。
- ・ 「新潟大学カード」の利用を促す。



平成二十四年度 専門部活動計画

● 研 修 部 ●●●●●

部長 加藤 文字

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画いたしました。多数の皆様参加をお願いいたします。

二 事業内容

同窓会創設六十周年記念

「第三十九回同窓生の集い」

- ・期 日 九月二十九日（土）
- ・会 場 「新潟会館」

新潟市中央区幸西

- ・記念講演（二時～二時四十分）

「これからの学校と地域社会」

講師 雲尾 周 准教授

（新潟大学大学院現代社会文化研究科）

- ・懇親会（四時～六時）

申込等詳しいことは八ページをご覧ください。

● 広 報 部 ●●●●●

部長 臼杵 勇人

一 基本方針

- 会員の活動の様子を紹介し、その声を取り上げる。
- 大学との連携をより一層密にした活動の推進を図る。

二 活動内容の概要

「教育新報」発行（年間二回発行）

○第一六三号（七月発行予定）

巻頭言（会長） 花鳥風月

第一回評議会の報告

二十四年度活動計画（各専門部長）

支部・学科代表者会報告

学科の活動紹介（数学・歴史）

大学教官の異動及び大学のコーナー

本部役員、支部長、学科代表一覧

「同窓生の集い」の広報

○第一六四号（二月発行予定）

巻頭言（副会長） 花鳥風月

「同窓生の集い」の報告

学校紹介（二校の校長に依頼）

大学のコーナー

二十四年度会務報告

大学教官との懇談会の報告

会員の広場（各支部長に依頼）

同期の活動紹介

三 お 願 い

- ・教育学部、支部・学科の動向についての情報提供をお願いします。
- ・ユニークな取組、地道な活動をしている会員の皆様方の情報提供をお願いします。

● 組 織 部 ●●●●●

部長 武藤真理子

一 活動の重点

- ① 支部及び学科部との連携を図り、会員の連帯意識の高揚に努める。
- ② 準会員とその保護者に対して、同窓会活動への理解を得るように努める。
- ③ 支部組織の改編に向けた諸準備の検討を行う。

二 活動の内容

- ① 支部長・学科代表者全体会
平成二十四年六月二日（土）
同窓会の現状と課題について
- ② 支部長会の開催
平成二十四年六月二日（土）
支部の状況、会費納入などの情報交換を、学科代表者会と同時程で別室において行う。
- ③ 学科代表者会の開催
平成二十四年六月二日（土）
学科の状況、学科の集いの開催、会費納入などの情報交換を行う。

三 そ の 他

- ① 教職退職者への対応
- ② 学部入学生、学部卒業生への対応
- ③ 検討事項
・今後の支部組織の再編
・同窓会組織の再編

● 交 流 部 ●●●●●

部長 山下あい子

交流部は、今年度も次のような活動を計画しています。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

一 新潟大学教育学部教職員と同窓会役員との「懇談会・懇親会」の開催

互いの現状を報告し、要望や意見を交換しながら交流を深め、意思の疎通を図る。懇談会の主な内容は、

- 大学・学部の現状と主な取組
- 卒業生の就職状況と現場との連携
- 同窓会の活動への提言
- 大学カード利用の促進 など

二 教育学部の学生、卒業生の就職活動への支援体制の整備

学生・卒業生の就職活動への具体的な支援について、大学・学部と話し合い、対応策を考え、連携・協力する。

三 会員への働き掛けと資質・指導力の向上

新潟大学の大学院の教育学研究科や現代社会文化研究科、免許法認定公開講座等を広く紹介し、参加を呼び掛けて大学に協力するとともに、会員の資質や指導力向上に資する。

四 当県の各種教育関係機関、他団体等との連携促進

全学同窓会交流会への参加 など

支部・学科代表者会から

平成二十四年六月二日（土）、新潟教育会館において支部長・学科代表者全体会、引き続き支部長会、学科代表者会を開催しました。以下会の概要をお知らせいたします。

支部長・学科代表者全体会

佐藤重勝会長から開会のあいさつをいただきました。その中で、今年は創立六十周年にあたることを踏まえて同窓会への所属意識を高めていってほしいとのお話がありました。具体的には、

○ 九月二十九日の学部同窓生の集い（今年度は講演会）への積極的な参加

○ 十月二十七日の全学同窓会への出席

○ カード事業への協力などでした。

支部長会

三十五支部中二十四支部の支部長が出席されました。

始めに事務局より、会費の納入について、各支部長の働き掛けが非常に有効であったことなどの報告がありました。

その後、それぞれの支部の現状や問題点など忌憚のない意見交換がなされ、有意義な会となりました。

毎年、異動があり、会員の把握が難しくなっていること。個人情報保護のため、会員の情報を得にくくなっていること。将来は永年会員とそうでない会員が支部内に在籍することになるが、年会費納入の働き掛けが難しくなることが予想されることなどの意見が出されました。そんな状況の中でも、全ての支部長からは会費納入百パーセントを目指して、未納者のいる学校に働き掛けたいという心強い意見をいただきました。

最後に事務局から、各支部において同窓会として研修会などを行った場合の補助金について説明があり、大いにその補助の制度を活用してほしいというお話がありました。

学科代表者会

学科代表者会には十八名の参加をいただきました。情報交換の場では、「学科の会の現状と課題」と題して、今年度の学科の会の持ち方についての紹介、その他名簿の作成についてなどのご意見

見をいただきました。

毎年学科の集いを行っている学科、学科の便りを発行している学科、その他名簿作成・発行、研修会の開催、他の学科との合同の会の開催など、多彩な取組について紹介がありました。

今後、学部として新たに名簿を作成するときに、学科別の名簿ができるとよいという要望や、名簿の更新が県内の会員に限られているという実態など、様々な意見交換が行われ、有意義な会となりました。

名簿の作成更新については、今後検討が必要であると感じました。



大学教官の異動

（昨年の七月以降）

◎学部を去られた先生

教授 長岡 成夫（倫理学）

五十嵐由利子（住居学）

福原 晴夫（水界生態学）

武田 光一（日本美術史）

以上、三月三十一日付定年退職

教授 八鍬 友広（日本教育史）

准教授 上石 圭一（法社会学）

以上、三月三十一日付転出

◎新しくおいでになった先生

准教授 阿部 好貴（数学教育学）

（平成二三年一〇月一日付）

志賀 隆（生物学）

（四月一日付）

岡田 祥平

（国語学・現代語）

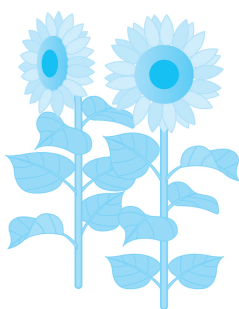
（四月一日付）

飯野由香利（住居学）

（五月一日付）

田中 咲子（美術史）

（六月一日付）



学科の活動
《歴史学科》歴史科(日本史)
同窓会活動代表 津野 治彦
(上越教育大学)

昭和六十一年に発行された、新潟県歴史教育研究会の会報第七号の事務局だよりに次の文章がありました。

新潟大学教育学部歴史科の卒業生によって組織された本会は、昭和四十年代に広く門戸を開き巡検等活発な活動が行われてきました。

しかし五十年代に入り、低迷が続き、ようやく昭和五十七年六月に再建発足いたしました。会の基盤をしっかりと立て直すために、会長、事務局を、大学側に置き、旧歴史科、日本史科、外国史(東洋史)科の卒業生名簿を復元していきながら、会への呼びかけを行ってきました。そして、現在、卒業生六百名に年間二回「会報」を送り、年一回研究会・総会を開き、さらに「歴史教育論考」(本会の研究紀要)を毎年一冊ずつ出し、会費納入者に配布するまでになりました。本年会費納入者は、二百名余り。

歴史科は、長く新潟県歴史教育研究会として活動してきました。

平成六年度からは、「地域素材を教材化する」をテーマに掲げて研究大会を行ってきました。その第一回は、三

年生二グループによる、三時間分の指導案の発表でした。学生の提案に刺激を受け、翌年から、会員や、県内の教師に依頼して現場での実践を発表してもらいました。中世から始まり、古代・近世・近現代と、充実した内容の研究大会が続きました。もちろん学生も参加していました。

しかし、平成十二年度を最後にして研究大会も開催されない状態が続きました。先輩の先生方から、同窓会という形でもよいので、何とか集まる機会をつくるのができないかと心配していただきました。

そして、昨年度、日本史料科の同窓会として開催することができました。参加者は三十三人でした。新潟市立新潟小学校長(当時)の伊藤充先生から、「歴史科の後輩に期待する」という演題でご講演いただきました。伊藤先生は、最後に次の六箇条を話されました。

第一条 歴史とかわり続けること

第二条 大学の恩師を大切にすること

第三条 先輩・後輩が集まること

第四条 集まって先輩から学び、後輩を鍛えること、そして自分を磨くこと

第五条 一人では力が付かないこと、視野が広がらないことを悟ること

第六条 営みが続け、歴史にすること

小さな営みながら、先輩方の思いをつなげることができるように、会を続けていきたいと思えます。

学科の活動
《数 学 科》「数学教育談話会」
の絆会長 筒井 稔
(新潟市立葛塚中学校)

「数学教育談話会(以下談話会と記載)」は、新潟大学教育学部中学校教員養成課程数学科(同窓会の学科別名称は数学科)を卒業した人たちを対象としてつくられた学科別の同窓会です。今年の総会で五十四回ということを見ると、歴史の重みをズシリと感じます。

例年、「談話会」では、八月に行う「総会」と小学校教員養成課程数学科の同窓会「親和会」と合同で十月に開催する「研修の集い」の年二回会員が集う機会を設けています。これらの会には、顧問である学部の数学科の先生方がかかさず出席し、講義をしていただき、親交を深めています。

今も昔も変わらない「談話会」と学部の方との強い絆、これこそが、「談話会」の最大の魅力であることは間違いありません。年二回の会では、現役の会員による研究発表を必ず行うことで、本会の目的の一つである「数学科教育の研究推進」にも積極的に取り組むようにしています。

また「総会」「研修の集い」両方で、当然のことながら懇親会を盛大に行っています。このことにより本会のもう一つの目的である「会員相互及び大学の先生方との絆」を強くしていることは言うまでもないことでしょう。

また「研修の集い」は、新潟市内の開催となりますが、「総会」に関しては開催場所を上越、中越、下越と3年間のサイクルで変えています。

これは、全県にいる会員一人一人が少しでも「総会」に出席しやすいようにという熱き思いからの工夫でもあります。企画運営は、上越、中越、下越にいる地区幹事が行います。このように「談話会」の絆は組織的にも充実したものとなっています。

更に「数学談話会誌」と「数学教育談話会報」を隔年で交互に作成して年間の研修成果をまとめて、全会員に配布しています。「総会」「研修の集い」に不参加だった会員のために、大学の先生方の講義内容や会員の研究発表の内容などを掲載することで、会員相互の絆を更に太くしたいという願いのこもった取組でもあります。

因みに今年度末には六十ページ程の「数学談話会誌第三十三号」を発行する予定です。このように、「談話会」は大変多彩な活動を行っています。今後より魅力的な会となるよう精一杯頑張りたいと思っています。

大学のコーナー

「卒業研究と教員養成」

教育学部副学部長 鈴木 賢 治

この時期、本学部の四年生は教員採用に向け熱心に取り組んでいる。夜昼なく教員採用に取り組む研究室も少なくない。さらに拍車をかけるように、文部科学省は教員採用率を公表し、序列化で各大学の尻を叩く。そうなる却不本意ながら、学部執行部として教員採用の取組をせざるを得ない。

そのような中でも、卒業研究をコツコツ取り組んでいる学生もいる。そのような学生の方が、人間もしっかりしているし、好感が持てる。もし教師になれば、将来が楽しみであるが、残念ながらそのような学生が採用されないことも多い。

私の研究分野は工学なので、競争の激しい領域である。教育学部は、工学部に比較して設備やスタッフ、研究費の面でも劣る。しかし、人が手を出さないようなテーマを地道に解くことや基礎的な研究をするにはよい環境であり、教育学部としての唯一の強みと言える。研究面で生き残るためには、歴史に残された難問をコツコツ解いて行くしかない。その結果、研究室の学生

も、根気強さを要求される。

原田正純先生は、水俣病の調査と研究をつづけ、水俣病の解決に人生を捧げた医師である。胎盤は胎児を毒物から護るので、胎児は水俣病にならないと言うのが、当時の医学界の常識であった。彼は、水俣病の調査・研究からその定説を覆し、胎児性水俣病を明らかにした。この研究は以後、サリドマイドやPCBなど胎盤由来の中毒事件に多大な貢献をすることになる。しかし、彼は熊本大学医学部から研究費も配当されず、苦しい条件の中で優れた研究と医師養成を全うしたが、助教授のまま定年となった。

「治せる病気の患者を診てただ治すだけでは、医師としてそれで十分でない。治せない病気はたくさんある。治せない病気の患者に対して、何ができるか、何をすべきかが医師には問われる」と、原田先生は述べている。

同じようなことが、教育にも問われているのではないだろうか。わかることをわかる子どもに教えるのが学校であれば、誰でも教員になれる。わから

ない子どもにどう向き合うか、答えのない事柄に対して何をすべきか。そこに教師としての本当の力量が問われている。教員養成や、教員の研修でも、このようなことがもっと重視されてもよいのではないだろうか。いろいろな問題を起こす子どもは少なくない。また、困難を抱えた家庭も多く、それを背負って学校に通う子どももいる。

教育実践の困難と向き合うことを避け、子どもに見切りを付けていないだろうか。また、原因を家庭に求めておざなりな対応にしていけないだろうか。現実を直視すれば、教師の抱える問題は、どれもこれも良薬のないことばかりである。

本来、大学における卒業研究は、学問の一端を学ぶことに留まらず、未知の課題に指導教員と共に取り組む活動である。卒業研究は、名実共に四年間の大学生活の総仕上げである。些細なことを一つ解決するために、膨大な労力を必要とするし、それについての深い知識と理解を欠くことができない。ある意味では興味深い、苦しい仕事でもある。だからこそ、情熱も必要とされる。

人物重視の中でも、卒業研究に対する努力と達成度を評価すると、優れた教員がたくさん採用できるかもしれない。そのようになれば、質の高い教員養成も期待できる。

事務局だより

●会費納入のお願い

二四年会費の納入をお願いします。県内教職員の皆様は各学校・機関単位での入金となりますので、代表者にお届けください。

代表の方には大変お手数をお掛けしますがよろしく願います。

永年会員の皆様を除く個人会員の方には、個別に振込用紙をお送りします。

●大学・全学同窓会交流会のご案内

期 日 一〇月二七日(土)

・ 研究紹介・記念講演・懇親会

・ 長田 啓氏(自然保護官)

「トキの野生復帰が

目指す人と自然の共生」

●おくやみです

顧問の吉澤孝一様と本間英輔様がお亡くなりになりました。

・ 古澤 孝一様(三月六日)

・ 本間 英輔様(五月二一日)



平成24年度 同窓会本部役員

<任期は23～24年度>

役 職		氏 名	期	支部	学校名等
会 長		佐藤 重勝	18	新潟	
副 会 長		安達 徹	25	新潟	亀田東小学校
		宮川由美子	25	新潟	巻南小学校
		森 弘志	26	新発田	東豊小学校
		湯本 正明	26	長岡	希望が丘小学校
事 務 局		櫛谷 秋男	18	新潟	教育同窓会事務局
		北上あつ子	23		
専 門 部	研修部	◎加藤 文子	25	新潟	庄瀬小学校
		○渡辺 真也	31	新潟	根岸小学校
		小泉 慎子	35	新潟	小林小学校
		福田 愛日	41	新潟	万代長嶺小学校
		塚本 弓子	44	新潟	豊照小学校
	広報部	◎臼杵 勇人	28	新潟	大鷲小学校
		○本間 正人	30	阿賀野	笹岡小学校
		川口由美子	35	新潟	曾根小学校
		江口 範文	37	小千谷	小千谷小学校
		佐藤紀代子	37	新潟	丸山小学校
	組織部	◎武藤真理子	24	燕	粟生津小学校
		○内木 正宏	31	新潟	青山小学校
		本間アユ子	31	新潟	新関小学校
		小見芳太郎	51	長岡	上川西小学校
		加藤 雅晃	56	新潟	亀田東小学校

役 職		氏 名	期	支部	学校名等
専 門 部	交 流 部	◎山下 あい子	26	新潟	中野小屋中学校
		○橋谷田 登	31	新潟	新潟市教委教育総務課
		滝澤 かほる	*	大学	新潟大学教育学部
監 事		松井 裕美	32	新潟	越前小学校
		佐藤 文俊	33	新潟	新潟市教委学校支援課
		佐藤 宏欣	33	新潟	内野中学校
顧 問		中川 幸次	1	長岡	
		江口 直禎	1	新潟	
		大関 雄策	2	新潟	
		安藤 耕平	4	新潟	
		磯辺 浩昭	7	新潟	
		藤井 保男	14	新潟	
		斎藤寿一郎	14	新潟	
新潟大学全学同窓会	理 事	佐藤 重勝	18	新潟	
	運 営 員	里村 俊夫	18	新潟	
		菱田 由美	20	新潟	新潟市教委学校支援課
		茨木むつ子	20	新潟	
		岡村 浩	36	大学	新潟大学教育学部
	カード事業 推進部	駒澤 一彦	15	新潟	
		(茨木むつ子)	20	新潟	

平成24年度 同窓会学科代表

	学科名	学科代表	校 名
1	国 語	伊藤 守	阿賀野市教育委員会学校教育課
2	地 理	山崎 浩志	高千小学校
3	歴 史	津野 治彦	上越教育大学学校教育実践研究センター
4	経 済	長沼 智之	巻南小学校
5	哲 学	田口 秀行	直江津東中学校
6	社 会	土田 宏美	新道小学校
7	算 数(親話会)	高橋 雄一	新潟小学校
8	数 学	筒井 稔	葛塚中学校
9	物 理	茂呂 良彦	山倉小学校
10	化 学	篠山 健	新潟市教委学校教育課
11	生 物	緒方 猛	新潟市総合教育センター
12	地 学	高橋 克哉	塩殿小学校
13	英 語	金子 一男	新潟第一高等学校
14	音 楽	斎藤 隆	舟栄中学校
15	美 術	野川 彰夫	江南小学校
16	保 健 体 育	市島 誠一	白根北中学校
17	家 庭[萌木会]	池山 純子	自宅
18	職 業 指 導	松村 明彦	新津第五中学校
19	教 育	佐々木 研	自宅
20	教 育 心 理	小林 広紀	西内野小学校
21	技 術	白石誠史郎	濁川中学校
22	特別支援教育	八藤俊和男	附属特別支援学校
23	養教特別別科	樺澤 哲子	長岡明德高等学校
24	幼 稚 園	近藤 和徳	新潟市立沼垂幼稚園
25	学社ネットワーク	小柳加奈子	田上町保健福祉課
26	学社ネットワーク課程	木村 敏樹	新潟市市民納税課
27	生 活 科 学	眞邊麻依子	安田中学校
28	生活システム	大森 山	城西中学校
29	健康スポーツ	大口 良平	下早川小学校
30	書 道	岡村 浩	新潟大学教育学部

平成24年度 同窓会支部長

地域	番号	支部名	支部長	校 名
上 越	1	上 越	八川 亨	南川小学校
	2	長 岡	三澤 淳伸	山古志中学校
	3	長 岡	大山 明雄	大島小学校
	4	三 条	櫻井 清隆	三条小学校
	5	柏崎・刈羽	小池 尚志	日吉小学校
	6	小 千 谷	高橋 克哉	塩殿小学校
	7	加 茂	栗林 操	加茂中学校
	8	十 日 町	川崎 正男	西小学校
	9	見 附	永井 毅人	名木野小学校
	10	魚 沼	洪木 保之	分水北小学校
	11	南 魚 沼	米山 智	小出小学校
	12	弥 彦	川崎 久雄	五十沢小学校
	13	田 上	服部 裕行	弥彦中学校
	14	湯 沢	水越 啓彰	羽生田小学校
	15	出 雲 崎	井熊 健一	湯沢小学校
	16	津 南	栗林 智代	出雲崎小学校
	17	新 潟 北	猪田 謙	外丸小学校
中 越	18	新 潟 東	筒井 稔	葛塚中学校
	19	新 潟 中 央	宮内 章	下山小学校
	20	新 潟 江 南	澁谷 徹	万代長嶺小学校
	21	新 潟 秋 葉	森 龍憲	亀田西小学校
	22	新 潟 南 西	永井 達哉	小須戸小学校
	23	新 潟 西 蒲	大井 隆	味方小学校
	24	新 潟 上	須田 哲明	山田小学校
	25	新 潟 佐 野	太田 伸男	湯東東小学校
	26	新 潟 佐 野	佐久間州彦	車野小学校
	27	新 潟 佐 野	佐野 一彦	金屋小学校
	28	新 潟 佐 野	小野 進二	五泉南小学校
	29	新 潟 佐 野	安達 清重	安野小学校
	30	新 潟 佐 野	浮須 洋子	きのと小学校
	31	新 潟 佐 野	佐藤 政志	聖籠中学校
	32	新 潟 佐 野	坂井 進	三川小学校
	33	新 潟 佐 野	野澤 一吉	関川中学校
	34	新 潟 佐 野	栗保 次世	栗島浦小学校
佐 渡	35	佐 渡	大山 誠	金泉小学校

同窓会会員 様

新潟大学教育学部同窓会
会 長 佐藤 重勝

同窓会創設60周年記念

「第39回同窓生の集い」のご案内

盛夏の候、会員の皆様にはますますご清祥のことと存じます。

さて、今年度は同窓会創設60周年という記念の年度です。教育学部同窓会のより良い在り方を求めるとともに、大学との連携を重視しながら同窓会活動の一層の充実を目指して、下記のように「第39回同窓生の集い」を計画いたしました。多くの会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

記

- 1 期 日 平成24年 9 月29日（土） 13時30分受付開始
2 会 場 新潟会館 新潟市中央区幸西 3－3－1 ☎025（247）9307
3 日 程

13:30	14:00	14:15	15:40	16:00	18:00
受付	開会	記念講演	移動	懇親会	

記念講演 講 師 雲 尾 周 氏

新潟大学大学院現代社会文化研究科准教授

演 題 これからの学校と地域社会



講師からのメッセージ

平成18年の教育基本法改正に前後して、教育への取組が変化しつつある。少子高齢化社会、ICT化社会、地方分権化といった社会変化の中で、首長の教育への関与、小中一貫教育や学校運営協議会、学校支援地域本部などの動きが全国各地で展開されている。それに加えて、東日本大震災による被災と復興が、学校と地域社会の関係への再考も迫っている。今後の教員養成の方向性だけでなく、一住民としての生き方をも考える会としたい。

(雲尾周氏プロフィール)

教育行政・生涯学習・学校経営などの分野で、地域と結び付いた調査研究実践を行っているほか、県下の学校・園などで家庭教育に関する講演、学校組織マネジメント研修講師なども精力的に行っている。

4 問い合わせ・申し込み先

○今回は一般市民への案内はいたしません。

○参加希望の方は、会場準備の都合がありますので、9月10日までにご連絡ください。

新潟大学教育学部同窓会事務局

☎・FAX 025（263）6760

メール dousou@ed.niigata-u.ac.jp

(火曜日から金曜日までの13:00から17:00の間にお問い合わせいたします。)